

平成25年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階 ・ **実施段階**）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>・知の沃野を切り開き、豊かな感性を身に付け、創造力に富む人間の育成に努める。</p> <p>・個人の責任と義務を尊重し、道徳性の高い行動力のある人間の育成に努める。</p> <p>・自ら学ぶ意欲を喚起し、社会の変化に対応できる能力を育成し、進路希望の実現に努める。</p> <p>・勤労とボランティア精神の資質を養い、人権を尊重し、社会の一員としての自覚と行動ができる人間の育成に努める。</p> <p>・家庭や地域社会との連携を強化し、21世紀の新生洛東高校として信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>・身だしなみを中心とした生活規律の確立を図る取組を推進し、一定の成果を得た。次年度も基本的生活習慣の一層の確立を目指して、地域・保護者から信頼が得られる学校づくりが喫緊の課題である。</p> <p>・コの字型グループ学習やディベート授業等、授業改善(教育内容と指導方法の充実)の推進に取り組んだ。併せて7限基礎学力補充により、低学力生徒の学力向上に一定の成果を得た。</p> <p>・進路補習等の取組を質・量ともに充実させるとともに、個に応じたきめ細かい進路指導により、全生徒の第1希望の進路実現を目指す学校体制構築が必要である。</p> <p>・介助を必要とする生徒に対する校内体制、施設面での整備に取り組んだ。特別支援を必要とする生徒に対する校内体制づくりも更に推進する。</p> <p>・学校説明会やホームページのタイムリーな更新等、広報活動を継続して展開した。ホームページについては、質・量ともに一層の改善を推進したい。</p>	<p>・身だしなみを中心とした基本的生活習慣を確立するための指導に努める。また、1年生一学期に、高校生としての心構え、規律ある行動などを徹底して指導し、3年間の基盤をつくる。</p> <p>・各教科における授業の工夫・改善に努め、一層の教育力向上を図る。併せて、すべての授業にキャリア教育の視点を織り込み、自己実現への意欲を喚起する。</p> <p>・3年間を見据えた学習指導、進路指導の在り方についての継続的な研修と具体的な取組を行い、進路希望の実現に努める。</p> <p>・LD、ADHD、高機能自閉症等の生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な教育的支援を行う特別支援教育を推進する。</p> <p>・平成26年度から始まる単独選抜に向けて、中学生・保護者・地域から期待される学校づくりを推進する。</p>

分掌名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
	学校運営体制	教職員組織体制を整備し、学校運営を活性化させる。	部長会議の機能と役割を充実させ、職員会議や各種会議の時間短縮及び効率化を図る。	B B	部長会議を効率的に活用し、職員会議の精選につながった。時間的なこともあり、活性化させるには課題が残った。
	広報・学校評価	広報活動を推進し、学校評価等の実施と学校改善のシステム化を図る。	学校説明会等の広報活動を継続し展開する。	B	総合企画部の働きと各分掌部長連携により、学校公開、合同説明会等充実したものになった。 学校・授業評価については方法なども含めてさらに充実したものにする必要がある。
			自己評価及び外部評価をまとめ、次年度に向けた改善点を明確にする。	C	
教職員研修	教職員研修を充実させ、資質能力の向上を図る。	「学力向上フロンティア会議」を核として、授業改善に向けた校内研修を一層推進する。また、各分掌(学年部を除く)主管の教職員研修をそれぞれ年1回以上実施し、共通理解と組織力向上につなげる。 府総合教育センター実施の研修講座受講者数を前年度より増加させることにより、教職員のスキルアップを実現する。	B C	校内研修については予定通り、効果的な研修ができた。学力向上フロンティア会議としての取組については、充分とは言えなかったが、個々の担当者の努力により何とかこなすことができた。	